

※1：天狗椀は幻の器であり、当時天狗と呼ばれていた木地師が活躍した場所を天狗平と呼ぶようになったという説もある。

※2：^{これたか}惟喬親王(844年～897年)は文徳天皇の第1皇子。皇位継承に敗れ、^{おくらろくごう}小椋六郷(現在の滋賀県東近江市)に隠れ住む。惟喬親王が建てた金龍寺は「高松御所」と呼ばれた。轆轤(ろくろ)を考案発明したと伝えられ、この地域は「木地師発祥の地」、惟喬親王は「日本木地師の元祖」とされる。



天狗平の御所桜

北 河内の高台から、何百年にわたって山里に春の訪れを告げてきた巨大な桜がある。天野家の庭近くにそびえ立つ『天狗平の御所桜』。能登町の天然記念物に指定される巨樹で、幹周り約3・4メートル、樹高約16メートル、樹齢約500年と推定されるエドヒガンだ。

なぜこの桜を『天狗平の御所桜』と呼ぶのか。

かつてこの地は木地師の里であり、天狗椀と呼ばれる漆器が作られていたとされる※1。柳田村の集落誌には「天野家は、代々五郎右衛門と称する天狗椀の木地師であった」との記述もある。

木地師の聖地である「小椋六郷(滋賀県)」は、平安初期に惟喬親王※2が隠れ住んだ「御所」という伝説の地で、この地から持ち帰った桜に「御所」の名前が付けられたと考えられている。

昭和57年、石川県林業試験場が発行した「石川県の巨樹」では、エドヒガン群(シダレザクラを含む)としては県内2位。樹木医で巨樹研究の第一人者田中敏之氏(金沢市)の著書「石川の巨木巨樹」には「県下一の桜」と表されている。

立ち枯れから奇跡の回復

何百年と風雪に耐えてきた御所桜だが、一時期立ち枯れの危機にあつたという。この時、手入れをしたのが柳田盆友会の技術者。長年のとキリシマツツジなど樹木を手入れしてきた彼らの手によって、御所桜は再び樹勢を取り戻した。

古木だけが持つ独特の風格を漂わせながら、今年もまた可憐な花を咲かせた御所桜。地域を見守り続けてきた老木は今、地域の人たちに見守られ、新たな歴史を刻み始めている。



御所桜を守る会 事務局

西谷 進さん

にしたに・すすむ (58) =北河内=

小さいころから見続けてきた御所桜を
これからもずっと見守りたい。

北河内の集落では、10年ほど前から地域の人たちが集まって満開の御所桜の下で花見をしていました。昨年の花見の時に、宮本さんが来て「これだけ立派な桜を、みんなで守らなければダメだ」と言われ、区長に相談したことが守る会を立ち上げたきっかけです。

一昨年の雪で、大きな枝が折れてしまったということもあり、昨年秋に枝を支える支柱を久保会長や地域の人たちの協力で5本立てました。おかげで今年の大雪でも、枝の損傷はありませんでした。また町の文化財保護審議委員会の助言を受けて、根を守るために根元付近を立ち入り禁止としました。

老木になればなるほど管理が必要です。昨年秋には松枝先生の指示を受けてカワウソダケを全部取り除きました。県内にはカワウソダケが原因で枯れてしまった桜の巨木もあり、放置していたら御所桜もダメになっていたかもしれません。ほかにも下草を刈ったり、肥料として鶏ふんをやったりしています。

御所桜は、エドヒガンとして県内最大級の古木であり、県の天然記念物に指定してもらえないかと町の教育委員会に相談もしています。私は小さいころからずっと御所桜を見て育ちました。これからもできるだけ見守っていきたいと思っています。



地域で守る「町の至宝」



御所桜を守る会 会長

久保笙元さん

くぼ・しょうげん (71) =北河内=

たくさんの人に見に来てもらうことで、
集落の活性化につなげたい。

昭和37年に柳田村の天然記念物に指定された御所桜ですが、私自身は家が離れていることもあって、これまで特別な思い入れはありませんでした。

しかし、数年前に地主である天野さんの家が空き家になり、御所桜を管理する人がいなくなりました。これからは地域全体で御所桜を守ってほしいということで昨年7月に「御所桜を守る会」を立ち上げました。守る会には北河内の全23世帯に入ってもらい、私は区長ということもあり会長職を任せられました。

桜に関する専門的なことはまったく分からないので、相談役として笹川の宮本康一さんに入ってもらい、宮本さんの紹介で樹木医の松枝章さんと「健康の森」総合交流センター館長の石下哲雄さんの二人に顧問になっていただき、アドバイスを受けています。

御所桜の品種であるエドヒガンの花は、咲き始めが白く、満開の時には薄くピンクに染まり、散り際にまた白くなります。昨年は見事なまでにきれいに咲きましたが、今年は春先の低温が原因なのか、花の数も少なく満開になる前に葉が出ていました。

御所桜は地域の宝物です。保存と管理をすることで、たくさんの人に見に来てもらって、集落が少しでも元気になってくれればと思っています。

サクラの専門家に聞く。



石川県林業試験場

千木 容次長

せんぎ・よう

— エドヒガンという品種は。

本州・四国・九州に分布するサクラの野生種です。現在、石川県内には野生種の分布は見られませんが、富山県の氷見市や南砺市では野生のものが見られます。花弁が5枚の二重咲きで、花の色は白からピンクがかつたものまであり、花は葉が伸びる前に開くので美しいと言われます。関東周辺では、花が春の彼岸の頃に咲くので江戸彼岸と呼ばれるようになったようです。

— 県内のエドヒガンの巨樹は。

エドヒガンは、枝が垂れ下が

る品種であるシダレザクラを含めて、サクラの中では巨樹になる性質を持っています。県内には胸高幹周3mを超える巨樹といわれるものが、3本あり「天狗平の御所桜」は2番目の大きさです。国内で最大のものは、福島県の三春の滝桜です。

— 花がきれいに咲く条件は。

サクラは毎年花の数などはあまり変わらずに安定して咲くようですが、樹勢が弱つてくると子孫を残そうと花数が増える傾向があり、樹勢が旺盛になると花数が減るようです。サクラの木の周りの手入れを

行って堆肥や肥料を施したところ、翌年には花が少なくなったりということが何カ所かでありましたが、数年で樹勢がよくなつて手入れの前以上に咲くようになりました。

また、花が開きかけたときに霜に合うと花びらの一部が変色したり、完全には開かなくなったりすることがあります。

— 管理、保護の注意点は。

サクラだけではありませんが、巨樹が衰弱する最も多い原因は、木の周囲の土や根の踏み付けによる踏圧害です。

木の周りに人が多く入る場合は、できるだけ広い面積で木ぐいと麻製などのロープで、周囲を囲ってやると防ぐことができます。

虫害については、北河内のような自然に恵まれたところには天敵が居るのでほとんど心配いりません。

鉢伏山の遺品 いぼ地蔵



天 狗平から見下ろせる場所に「いぼ地蔵」と呼ばれるお地蔵様がまつられている。そばからわき出る水はいぼにつければ無痛で除去するといわれ、実際にいぼの治療例も多い。定期的に水をくみに来る人もいるという。

いぼ地蔵の後ろにある扁平の石は、かつて鉢伏山にあった寺の遺品とされる。北河内では、近くの河原でかまを洗った時に石にあたり、その石から血が出たのでまつた」と伝えられている。



五百年という歴史を刻んできた
孤高のエドヒガン。
この町の宝物を見守りたい。
何百年先も、可憐な花を咲かせ
満開の姿を見せてほしい。